

佳作

絵本との出会い

塩崎 美津江

私は栃木県の田園風景の美しい地に生まれ兄や姉の多い末っ子として、父には厳しくされ、母はやさしく、兄や姉には可愛がられて育ちました。野原や川、山々の自然とのふれあいの中で遊び、そして学び、環境にはとても恵まれていました。その反面、図書館や保育園もなく、あまり教育面は重んじられていなかった時代でした。そんな田舎で育った私には絵本などあまり縁がなく、読んでもらった記憶ありません。自分が子育てをする中で多少子供達に読み聞かせをしたことを覚えています。

子供達が高学年になった頃、将来安心して快適に活らせるようにと私も再就職して定年まで働きづめで頑張ってきました。六十五才で仕事をやめ、やっと自分の時間がとれるようになった時、荒川シルバー大学があることを知り、入学して英語教室と絵本教室に入り絵本と出会いました。月二回の授業の中で二冊か三冊程、講師の石崎先生が読み聞かせをして下さいます。そのあと本について先生と作者の気持や感想などをみんなで話し合ったりします。今まで授業で先生に読んで頂いたり、図書館で借りて読んだ絵本は百冊ぐらいにもなり沢山の絵本に出会って感動しました

絵本は子供達に言葉で教えることや美しい絵で伝えることがあり、先生やお母さんからの読み聞かせによって悪いことも良いことも知り、育って

いくものと思います。また大人になってから見る絵本はその絵の美しさに感動し、違った角度から理解することもできるので素晴らしい思い、今後
も良い絵本に出会い一生勉強、一生青春をモットーにしたいです

今ではシルバー大学の「折り紙・絵本」教室という中で沢山の絵本に出会うことができます。心に残っている本は「星の王子さま」です。最初の授業でこの本を先生に読んで頂き、みんなで何度も読み、語り合いました。そして、教室の皆さんと舞台を見に行き、家族では箱根の「星の王子さまミュージアム」に寄り、忘れられない一冊となりました。

今年度は英語教室で「ピノキオ」の英語版を勉強中ですが、まず日本語版を解読してからと思い、

図書館で幼児用の絵本と高学年用の厚い本を二冊お借りして読みました。さらに、電子図書を先生が貸して下さったので、初めて電子版で読みました。すごく便利なおことに気づきました。でも絵本の良さ、楽しさは絵本でしか味わえないことも解かり、次世代にも絵本の大切さを伝えていきたいと思っています。

これからもいろいろなことに挑戦して楽しい人生を歩み、何かの時に役に立つ機会があればうれしく思います。